

日本産業衛生学会 四国地方会 地方会ニュース

第48号 2025年12月15日発行

発行 日本産業衛生学会四国地方会
〒783-8505
高知県南国市岡豊町小蓮
高知大学医学部環境医学教室内
発行責任者 菅沼成文

第35回全国協議会（開催報告）

第35回全国協議会 企画運営委員長 斎藤 恵
（徳島産業保健総合支援センター 所長）

2025年11月27日（金）から29日（土）、あわぎんホール、シビックセンター（徳島市）にて、第35回日本産業衛生学会全国協議会を開催しました。

テーマは「すべての労働者が元気に働ける産業保健をめざして」としました。

女性労働者や外国人労働者の進出、定年延長による高齢労働者の活躍、障害や病気をもちながら就労継続する労働者、この多様性に溢れる現代の産業現場で、すべての労働者がそれぞれの置かれた立場で、最大限に能力を活かしたいきいき元気に働けるために、私たちは何を目指すべきか。この私たち産業保健に関わるものにとっての永遠のテーマを、再度原点に立ち返って考えたいと思いました。そして、私たち産業保健関係者自身も、多様化する産業保健現場で元気に活躍していくことができるようにという願いもこめて、このテーマに決めました。

まず初日の実地研修は、西精工株式会社土成第1工場、大塚製薬工場松茂工場、日亜化学工業株式会社本社工場、鳴門本家松浦酒造の4か所に向けてそれぞれバスを走らせました。それぞれ製造しているものも違いますが、工程見学や安全衛生の取り組みについての説明があり、充実した実地研修となったようです。4部会合同シンポジウムでは、4部会長にそれぞれ、各部会の抱える課題や今後の目標や展望を語っていただき、最後に武林理事長に指定発言をいただきました。各部会の連携の重要性が改めて認識され、産業保健の未来に対する新たな意欲と希望が生まれたように感じました。

特別講演1では目黒公郎先生から、これまでの大災害を振り返り、わが国の防災対策の課題と目指すべき方向性を教えていただき、特別講演2では徳島県が誇る腰痛のスーパードクター西良浩一先生に、腰痛に悩む人を正しい診断に繋げることの重要性和、侵襲の少ない手術法をご教示いただきました。

メインシンポジウム1では「すべての労働者が元気に働くための両立支援」をテーマに主治医・両立支援団体主催者、研究者、特例子会社社長、と立場が違う4名のシンポジストに、これまでの取り組みを語っていただき、壇上で討議していただきました。両立支援が事業場の努力義務化されますが、私たち産業保健従事者がどう関わればよいか改めて考える機会となりました。

メインシンポジウム2では「すべての労働者が輝ける社会へ」として、産業保健体制が充分ではない中小規模事業場の産業保健活動を充実させるための取り組みについて、4名のシンポジストに発表、討論いただきました。

一般演題（ポスター）は149演題が集まり、活発な討議が展開されました。

懇親会では徳島の有名連である娯茶平連と一緒に阿波踊りの大乱舞、最高潮の盛り上がりでした。



第 69 回中国四国合同産業衛生学会（開催報告）

第 69 回中国四国合同産業衛生学会 企画運営委員長 森岡 久尚
（徳島大学大学院医歯薬学研究部公衆衛生学分野 教授）



第 69 回中国四国合同産業衛生学会につきまして、令和 7 年 11 月 29 日（土）に、徳島県徳島市のあわぎんホール（徳島県郷土文化会館）にて開催しました。同年 11 月 27 日（木）から 29 日（土）まで、同ホールなどで、第 35 回日本産業衛生学会全国協議会（企画運営委員長：斎藤恵徳島県産業保健総合支援センター所長）されました。このような事情もあって、本学会には 133 名の参加がありました。四国地方会の会員の皆様を含め、大勢の方々にご出席いただきましたことに感謝を申し上げます。

本学会のテーマは「メンタルヘルスの充実に向けて」としました。

午前中は、東邦大学医療センター佐倉病院産業精神保健・職場復帰支援センターの小山文彦センター長（教授）に、「メンタル不調者への復職・両立支援」というテーマで講演いただきました。小山先生からは、人の精神現象を生体・心理・社会要因の三つの視点からとらえることが重要で、メンタルヘルス不調者の就労の可否判断にも bio-psycho-social model の見解が有用であるとのお話がありました。また、職場復帰のためのリワークの導入では、当事者、主治医、職場の共通理解が必要とのお話がありました。

その際に活用する具体的なアセスメント項目について、小山先生が実施された研究によれば、主治医と職域間の連携が治療効果と関連するとのご説明がありました。

最後に、復職者の職場や社会におけるキャリアを見積もることも重要であり、キャリアに相応しい機能回復に向けた支援を検討する際には、人事部門とも連携して行うことも求められるとのお話が私は特に印象に残りました。お忙しいところ講師をお引き受けいただきました小山先生に感謝を申し上げます。

その後、一般演題の発表となり、産業保健に関する研究や新たな取り組みなど、7 題の発表がありました。会場の出席者からも活発に質問やコメントが寄せられ、大変充実した発表会となりました。午後からは、産業医部会・産業衛生技術部会合同研修会と産業保健看護部会・産業歯科保健部会合同研修会の二つの研修会が開催されました。本学会の出席者は二つに分かれて、どちらかの研修会に出席することになりましたが、両研修会とも大勢の出席者があり、グループワークと全体討議では熱心に議論が行われていました。これらの研修会をもちまして、本学会の行事はすべて終了となりました。

改めて、本学会にご参加いただきました皆様に感謝を申し上げます。次回は、令和 8 年 7 月 25 日、26 日に、山下潤先生（マツダ（株））が学会長として広島において開催されると伺っています。

最後になりましたが、本学会の開催にあたって、全国協議会の斎藤恵委員長、菅沼成文先生、杉原由紀先生に大変お世話になりました。この場を借りて、深く感謝を申し上げます。

また、四国地方会の会員の皆様のご健勝とご発展を祈念申し上げます。

【第 35 回全国協議会開催報告】（産業保健看護部会）

<実地研修報告>

株式会社タダノ 赤澤 百合子

2025 年 11 月 27 日あわぎんホールにて講師_香川大学医学部附属病院がんセンター/腫瘍内科 村上あつき先生をお招きし、「もしバナゲームと人生会議（余命 1 年となったとき）」と題して、グループワークを行いました。全国の産業保健看護職が 43 名参加しました。村上先生の講話では、「がん」と診断されたとき「びっくり離職」を防ぐことや、緩和ケアは「がんと診断されたとき」から始まり、痛みの身体的な問題だけでなく、心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し対処し、苦痛を予防し和らげることを学び、前半は、9 割以上が初めて体験する「もしバナゲーム」を行いました。自分の価値観だけでなく多様な価値観があることを知り、選択肢が増えたという声もありました。

後半は、事例検討で「乳がんと診断された従業員」に対して産業保健スタッフとしてどのような支援ができるのか意見交換しました。1 本人の思いに寄り添いながら、2 正確な情報を基に行動するようサポートすることや、会社として安全配慮義務も視野にできること（配置換えなど）を検討すること。また、3 周囲との関係へ配慮していくことを学びました。

レポートでは、満足度 4.6、実用度 4.4 と高評価で（5 段階評価）、「人生会議を弊社の従業員に広めていきたい」「日頃の自分の支援を振り返り、整理させていただきました」との声があり、産業保健看護職との交流で、有意義な実地研修になりました。

<産業保健看護フォーラム報告>

株式会社四国銀行 人事部 川上 美紀

2025 年 11 月 28 日シビックホールにて、「職域における糖尿病対策～予防から両立支援まで～」というテーマで産業保健看護フォーラムを開催し、約 150 名の方が参加しました。

① 協会けんぽ徳島支部における生活習慣病の予防・重症化予防の対策について

（全国健康保険協会徳島支部 高橋潤様）

② 職域における糖尿病対策～持続血糖測定器を用いた予防的介入～

（JFE スチール（株）西日本製鉄所倉敷地区 安全健康室ヘルスサポートセンター 前田幸子様）

③ 働き盛りの健康を見守る徳島コホート研究より～勤労世代の健康寿命を延ばすには？～

（徳島大学先端酵素学研究所 船木真理様）

④ 患者の「声」を元に治療と仕事の両立支援を医療ソーシャルワーカーの立場から考える

（徳島赤十字病院 高木隆司様）

以上、4 名の発表後に全体で意見交換をする中で活動を共有でき、「働く人に寄り添い、変化に気づき、いいところを見つけて支援する」ことの重要性や、それぞれの専門性を改めて確認しました。また、中小規模の事業所で働く人へのアプローチなど、産業保健において求められる役割はますます高まっていると感じました。

産業保健看護職として引き続き知識やスキルを向上し、他職種連携のためのネットワーク形成に取り組んでまいります。最後に、開催に携わった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

【第 35 回全国協議会・第 69 回中国四国合同産業衛生学会報告】

浜井 盟子（産業衛生技術部会）

【報告 1】第 35 回全国協議会研修会

技術部会研修会 1「誰でも知っておきたい倫理審査」

化学物質自律管理の法改正に伴い、作業環境測定における個人ばく露測定（第 3 管理区分の改善困難作業場、リスクアセスメント対象物質の確認測定）が本邦において主流になることとなる。そのため、事例検討等の研究活動において、個人情報を取り扱うこととなるため、生命科学・医学系研究と同様に倫理指針に基づいた倫理審査を受審することが不可避となることが紹介された。倫理審査の基本、審査、受審、産業衛生技術者としてのかわりについて紹介された。

【報告 2】第 35 回全国協議会研修会

技術部会研修会 2「化学物質の自律管理～化学物質管理専門家等による事例紹介」

化学物質自律管理の法改正から 1 年半が経過した。国際企業及び国内中小企業の化学物質管理の事例が紹介された。また、確認測定物質が爆増する中、濃度分析機関の連携及び制度管理についても発表があり、法令遵守型から自律的な管理へのシフトに伴う対応、問題、課題等について確認した。

技術分野の専門職として新たに設けられた化学物質管理専門家・作業環境管理専門家・化学物質管理者・保護具着用管理責任者等の活動事例等についても今後の情報発信が期待される。

【報告 3】第 69 回中国四国合同産業衛生学会

産業医部会・産業衛生技術部会合同研修会「化学物質自律管理の課題と展望」

新たな化学物質管理体制に伴う取組みについて、産業医と作業環境測定士の立場から話題が提供された。実際の化学物質を取り扱っている作業場の具体的な例から、掲示、点検、保護具、リスク、保存すべき書類等の産業医巡視等で確認すべきことについてグループワークを行った。産業医としての着眼点について活発な意見交換ができた。

今回、産業医部会と産業衛生技術部会の合同研修会を初めて実施した。人的交流も含めて、他職種連携ができたことは有意義であった。現場を主体とし、法令対応、リスクアセスメント、確認事項、聞き取り調査内容等を洗い出し、作業環境管理、作業管理、健康管理に分けて衛生管理を落とし込むボトムアップ・水平展開の「しくみ化」と「みえる化」の重要性を認識することができた。



浜井盟子（座長）竹崎雅之（演者）高月克己（演者）真鍋憲幸（座長）

【第 69 回中国四国合同産業衛生学会報告】

沼田 和治（産業歯科保健部会）

産業保健看護部会・産業歯科保健部会合同研修会報告について

令和 7 年 11 月 29 日（土）、徳島県あわぎんホールにて第 35 回日本産業衛生学会全国協議会と併せて標記研修会が開催されました。今回は産業保健看護部会と産業歯科保健部会のコラボ企画として、「歯科医師と話そう！これからの産業歯科保健」をテーマに、各部より事例紹介とグループワークを行い、相互の意見交換を行う場を設けました。各部事例紹介は下記の通りです。

演題 1 「産業保健の事例紹介～歯科医師の視点から～」

医療法人静高会 うぐす歯科医院 沼田 和治

演題 2 「産業歯科保健の事例紹介～健康保険組合の取り組みについて～」

タダノ健康保険組合 岩崎 美樹

演題 3 「【令和 6 年度厚生労働省事業】簡易スクリーニングのモデル事業に関する報告」

株式会社四国銀行 人事部健康推進室 川上 美紀

事例紹介では、歯科医師の立場から働く人たちへ歯科保健アプローチを行うまでの経緯や手順に関する説明と、「むし歯」「歯周病」「歯磨き」の観点だけでなく「口腔機能」や「防災における口腔ケア」など、身近な生活を支援できるアプローチもあることが示されました。産業保健師の立場からは歯科保健活動の一環として事業所内歯科健診や歯科保健指導の実施、「歯科保健の通信講座」を利用して社員への啓発を継続的に行なっていることに加えて社員だけでなく家族も含めた歯科セミナーの開催などの取り組みが示されました。また「厚生労働省のモデル事業」として歯周病リスクの判定と事前事後の歯科保健アプローチに関する取り組みも報告されました。



後半のグループワークでは 5～8 名（必ず歯科医師を含む）のグループを形成し、「事業所での歯科保健の取り組み」や「歯科に関する悩み」等をテーマに 30 分ディスカッションしました。開始直後は皆緊張感が漂っていましたが、時間の経過とともに距離も縮まり笑い声や同感の頷く姿も多く見受けられ、終了前にはかなり活発な意見交換が行われていました。ディスカッションで出た意見を下記に一部抜粋します。

- ・歯周病が全身の疾患や糖尿病の重症化に及ぼす影響などについて講習するとインパクトがあるかもしれない
- ・口腔だけではなく全身疾患や生活習慣病と融合させた視点で歯科保健を捉えていくことが、歯科保健について土壌がない事業所や無関心層へのきっかけづくりになるのではないか。
- ・事業所への歯周病早期発見支援事業を提供している県や、人間ドックに歯周病健診をすでに取り入れている企業もある。グループワーク終了後には、グループごと自発的に名刺交換を行っており、「保健師の事業所での歯科の取り組みを直接聞けてとても勉強になった」「歯科医師と歯科保健についての相談が直接できて良かった」「またこのような機会を設けてほしい」など前向きな意見を頂きました。

今回の看・歯のコラボ企画を通して、事例紹介を含めて直接「歯科医師」と話すことで、より建設的な意見交換ができただけでなく、次の学会にも繋がる多職種との出会いの場を提供できたことは大変有意義な研修会となりました。全国協議会と同時開催という大規模運営の中、67 名もの産業保健関係者の方にご参加いただきましたこと、また事前の準備・運営にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

今後も産業保健発展のため、部会が連携し方向性を揃えていけるような研修会を企画できるよう努めてまいります。



【産業歯科保健部会活動報告】

うぐるす歯科医院 沼田 和治

令和7年度の産業歯科保健部会活動についてご報告いたします。

■ 第35回日本産業衛生学会全国協議会では下記の企画を行いました

◎ 産業歯科保健部会 フォーラム 令和7年11月27日(木)

テーマ 「多職種の視点で考察する働く人々のストレス」

演題1 「ストレスとストレスチェック制度」

徳島大学病院精神科神経科特任助教 吉田朋広先生

演題2 「職場におけるメンタルヘルス対策-産業保健看護職の視点から-」

(医) 精華園 海辺の社ホスピタル健康推進室保健師 槇本宏子先生

演題3 「「口臭」の悩みから見えてくる心身の相互作用と包括的支援の必要性」

徳島大学大学院医歯薬学研究部(歯科系)講師 福井誠先生

◎ 産業歯科保健部会 後期研修会 令和7年11月28日(金)

テーマ 「働く人々に提言、口腔保健に関する『トリセツ』」

演者 大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学講座特任教授 天野敦雄先生

◎ ポスター発表 第2回産業歯科保健部会優秀ポスター賞

テーマ 「歯科予防プログラムが全身健康に与える影響」

発表者 ライオン株式会社 デジタル戦略部 対馬啓氏

以上、令和7年度の産業歯科保健部会の報告でした。



安田産業歯科保健部会長と受賞した対馬氏

第36回日本産業衛生学会全国協議会

会期 2026年 11月5日(木)・6日(金)・7日(土)

会場 倉敷市民会館、倉敷市芸文館、
倉敷アイビースクエア他

企画運営委員長 伊藤 達男

(川崎医科大学衛生学教室)

大原孫三郎

ここから始まった感謝の旅路
想いを胸に皆で集いあう

暉峻義等

倉敷労働科学研究所

©クラブウ

【部会活動報告】

第 11 回産業医部会オースタムセミナー（開催報告）

杉原 由紀（産業医部会）

四国地方会産業医部会では、部会員の研鑽と部会員間の懇親を目的に部会員限定のセミナーを開催しています。2024 年度のサマーセミナーを 2024 年 8 月 31 日(土)に開催予定でしたが、当日は台風の影響で中止となり、改めて 11 月 17 日（日）にサンポートホール高松（高松市）にて開催しました。

第 11 回目は「若年性認知症について知る」をテーマとし、数井 裕光（かずい ひろあき）教授（高知大学医学部神経精神科学講座）を講師に迎えました。数井先生は 2018 年より高知大学医学部神経精神科学教室教授。臨床とともに研究にも力を注ぎ、『認知症診療ガイドライン 2017』『特発性正常圧水頭症診療ガイドライン』の作成や、認知症のケアに悩む方を対象としたコミュニティサイト“認知症ちえのわ net”の運営など、認知症を専門としたさまざまな活動に尽力されています。令和 3 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「若年性認知症における治療と仕事の両立に関する手引き」検討会委員も務められました。

認知症は一般的には高齢者に多い病気ですが、65 歳未満で発症した場合には「若年性認知症」と呼ばれます。いわゆる現役世代での発症となる若年性認知症は、働き盛りでの発症のため、本人や家族が被る経済的損失や心理的衝撃は非常に大きなものとなります。現時点で認知症の多くは完治困難ですが、薬物治療や周囲の関わりにより進行を遅らせることができる認知症もあります。今回のセミナーを通して、産業医として、疾患や経過を正しく理解した上で、労働者の病状や業務内容等を踏まえて必要な就業上の措置等を検討する礎となりそうです。セミナー終了後は、昼食を取りながらの軽い懇親会を行い、数井先生も含め、参加者間での懇親を図ることができました。



第 70 回中国四国合同産業衛生学会（広島）のご案内

マツダ株式会社 安全健康防災推進部 山下 潤

このたび、第 70 回中国四国合同産業衛生学会を、令和 8 年 7 月 25 日（土）・26 日（日）の 2 日間にわたり、広島県医師会館（広島市）にて開催することとなりましたので、四国地方会の皆様へご案内申し上げます。今回の開催時期は従来とは異なる日程となっており、調整にご不便をおかけする点もあるかと思いますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

本年度の学会テーマは、「人生 100 年時代における産業保健」といたしました。労働力人口の構造変化や高齢化の進展により、働く期間が長期化することを前提とした健康支援の重要性が増しています。加齢に伴う健康課題への対応、治療と就労の両立支援、職務能力の維持、多様な働き方への対応、個々の生活状況に合わせた支援など、産業保健の領域はこれまで以上に広がりを見せています。

こうした状況を踏まえ、産業医や保健師に限らず、職域の労働衛生に携わるすべての専門職が、医学的な側面だけでなく、組織運営や人材マネジメント、多職種連携といった幅広い視点を持ち、働く人々を支えることが求められています。今回のテーマには、こうした現代的課題に対する議論を深めたいという思いを込めました。さらに本学会では、第 9 回日本産業衛生学会ダイバーシティ推進委員会オンラインセミナーを併催し、多様な学びの機会を提供いたします。

例年と異なる部分もございますが、参加される皆様にとって有意義な情報交換の場となるよう準備を進めております。四国地方会の皆様におかれましても、演題応募を含め多方面からのご参加を心よりお待ちしております。

○2024 年度会計報告（2024 年 3 月～2025 年 2 月）

収入の部	科目	決算	支出の部	科目	決算	科目	決算
	事業収益	0		事業費	804,809	研究会費	
	協賛金等			臨時雇賃金		委託費	
	参加登録料収益			会場費	79,480	国際交流費	
	資格認定収益			旅費交通費	52,200	開発保守費	100,878
	その他事業収益			通信運搬費	3,260	雑費	3,575
	受取補助金等	793,393		印刷製本費		管理費	7,380
	受取本部助成金	793,393		懇親会費		給料手当	
	受取国庫助成金			消耗品費	8,420	理事幹事会費	
	受取地方公共団体助成金			機関誌発行費	28,600	旅費交通費	
	受取民間助成金			広報渉外費		通信運搬費	
	受取負担金			研究費		役員改選費	6,610
	受取活動費			諸謝金	89,790	印刷製本費	
	受取寄付金			学会助成金	100,000	消耗什器備品費	
	受取寄付金			協議会助成金	138,606	消耗品費	
	雑収益	83,206		大会研修会助成金		会員報奨費	
	受取利息	1,478		部会助成金	200,000	広報渉外費	
	雑収益	81,728		地方会助成金		委託費	
				委員会費		雑費	770
	経常収益計	876,599		経常費用計			812,189

○四国地方会のウェブサイトをご確認ください！

⇒ <https://sanei-shikoku.jp/>

ぜひ、ご活用ください。



四国地方会ウェブサイトのトップページにバナー広告を募集します。
詳細につきましては、四国地方会事務局までご相談ください。

○四国地方会事務局移転のお知らせ

高知大学医学部環境医学教室内 に移転しました。

ご連絡はメールでお願いします。 E-mail: jsoh_shikoku@sanei.or.jp

★★★ 編集後記 ★★★

2025 年の新語・流行語大賞に「二季（にき）」がノミネートされました。夏が長くなり＋酷暑が続き、秋を感じることなく気づいたら急に冬が来る。四国地方会として担当した第 35 回全国協議会＋第 69 回中国四国合同産業衛生学会も、暑い夏の間に準備に追われ、晴天に恵まれた 3 日間はあっという間で、気が付けば、この前まで熱中症対策！を頑張っていた工場内に、大きなパネルヒーターが準備されています。
今回の地方会ニュースには、第 35 回全国協議会＋第 69 回中国四国合同産業衛生学会の開催報告をたくさん投稿いただきました。あっという間に終わってしまいましたが、これらの成果は財産として、四国地方会に残されます。

このニュースがお手元に届くころには、第 35 回全国協議会のオンデマンド配信中です。
ぜひ、再度ゆっくり各企画をご視聴ください。

くる年が皆様にとって幸多い 1 年になりますように。（杉原）

